

# はじめてのジョリーフォニックスの

## 指導に関連した

細かいけど**重要な**

# 5つのワークショップ

ご興味のある方はぜひご参加ください。

1) 7/24 (月) 13:30-15:00: ジョリーフォニックスって? 「ジョリーフォニックス Introduction」

2) 7/25 (火) 13:30-15:30: ジョリーフォニックスの導入前に行きたい! 「英語の音遊び」

3) 7/27 (木) 13:15-14:15: はじめてのジョリーフォニックス 1 の後に! 「42 音後のアセスメント」

4) 7/27 (木) 14:45-16:45: はじめてのジョリーフォニックス 1 の後に! 「(はじめての JP) 2 への橋渡し」

5) 7/28 (金) 13:30-15:30: はじめてのジョリーフォニックスに併せて! 「デコーダブルブックス」



会場: エル・おおさか南館

7階南 75 会議室

〒540-0031 大阪市中央区北浜東 3-14

大阪府立労働センター

<https://www.l-osaka.or.jp/>

定員各最大 28 名



詳細の確認・お問い合わせ・お申込みは公示ページから <https://kayokoyamashita.com/2023DW5>



お申込み・お問い合わせはすべてメールベースでのやりとりとなります。@kayokoyamashita.com からのメールを受け取ることができるよう、あらかじめメールアカウントをご設定ください。詳しくは「メールが来ない!」(<https://kayokoyamashita.com/settings>: 左工具アイコン) をクリックした先の「2) メール受け取り拒否設定などをチェック!」の項目をご確認いただくことをお勧めしています。

講師: 山下桂世子 Kayoko Yamashita

日本で小学校教諭(通常学級と特別支援学級)として勤務後、渡英。

イギリスではブリススクールでの勤務を経て、少数民族サポート機関 EMASS へ。その後イギリス現地小学校で Language Assistant 兼特別支援チームリーダーとして活動後、Teaching Assistant として長年勤務。現在は特別支援学級リーダー (SEN Provision Leader) として活躍中。

一方、現地 ACE (市の成人学級) では日本語講師として活躍。(現在休止中)

また、Nottingham 大学で特別支援教育修士号取得後、トラウマについて学ぶ一方、Jolly Phonics / Jolly Grammar トレーナーとして 2013 年から活動開始。ジョリーフォニックスの指導経験はその時点で十年を超え、今もイギリス・日本・オンラインで指導者・学習者への指導とサポートを精力的に展開中。「はじめてのジョリーフォニックス 1,2 - ティーチャーズブック -」「はじめてのジョリーフォニックス 1,2 - スチューデントブック -」監修。「ワーキングメモリと英語入門」編著。ジョリーフォニックスで初めてのシンセティック・フォニックス授業～トレーニングセミナー編～DVD 発売中。ほか。



## workshop 1) 「ジョリーフォニックス Introduction」(1.5 時間)

2023.6.10 版

日時:2023 年 7 月 24 日(月) 13:30~15:00(受付開始 13:15)

費用:500 円

対象:どなたでも

総合トレーニング未受講の方を主な対象としたジョリーフォニックスのワークショップを開催します。以下の内容を予定しています。ジョリーフォニックス、シンセティック・フォニックスにご興味のある方はぜひご参加ください。

- ・ フォニックス、シンセティック・フォニックス、ジョリーフォニックスとは？
- ・ トレーナーによるデモレッスンと、そのレッスンの内容やポイントなど簡単な解説
- ・ ジョリーフォニックスの特徴と、読み書きの基礎を身に付ける意味

---

## workshop 2) 「英語の音遊び」(2 時間)

日時:2023 年 7 月 25 日(火) 13:30~15:30(受付開始 13:15)

費用:4,000 円

対象:どなたでも

私たちが英語を指導するとき、ついすぐに文字を指導したくなります。しかし、文字指導に入る前に英語の「音」に慣れ、その「音」を自分で操作できる力を養うことが重要です。例えば、日本語でもひらがなの指導が入るのは小学校 1 年生。それまでに子どもたちは「じゃんけんぽん!」をして、チョコだったら「チョコ・コレ・ート」いや「チ・ョ・コ・レ・ート」の方が一歩前に行ける、なんて言いながら遊んだり、またしりとり遊びをしたり、ダジャレを言ったりして、文字を使わない「音」遊びをたくさん行っています。

これらは実は日本語の音韻認識を育てるためのとても大切な遊び。これができたらようやく「文字指導の準備が整った」といえます。「チョコ」という音は「チョコ」という 2 文字、「コ」という音は「コ」という 1 文字。それぞれの音に文字を充てていくことで、音を文字に置き換えることができるようになります。

翻って英語教育ではどうでしょう？歌やジングルを聞く、聞こえる音を文字にする、などという活動以外に、英語の音を意識した「音遊び」をみなさんの教室では行っていますか？このワークショップでは、文字指導に入る前に行っておきたい「文字を使わない」音を養う活動を紹介していきます。

---

## workshop 3) 「42 音後のアセスメント」(1 時間)

日時:2023 年 7 月 27 日(木) 13:15~14:15(受付開始 13:00)

費用:2,500 円

対象:2017 年 4 月以降の山下桂世子の「ジョリーフォニックス総合トレーニング」Part1,2,3 受講済みの方

アセスメントと聞くと「評価」=子どもを評価する、と思われがちですが、ここで行うものは「指導者がどれだけ子どもたちが理解しているかを把握する」アセスメントです。言い換えれば指導者の指導内容や方法が適切だったかをチェックするものとも言えます。

42 音が終了した時点で多くの指導者は「子どもが読めるもの」と思い、次へどうしても急いでしまいます。しかし、実際に子どもたちは自分の力で読めているのでしょうか？そういう指導になっていたでしょうか？

今回のアセスメントでは、「はじめてのジョリーフォニックス」が終了した時点で行う簡単なアセスメントを紹介합니다。なぜこの単語を使うのか、できない子にはどんな指導をしていくといいのか、など解説いたします。今回お渡しする資料はご自身の教室で使っていただけますので、ぜひテキストが一冊終わった時点で、アセスメントを実施してみてくださいね。

## workshop 4) 「2 への橋渡し」(2 時間)

日時: 2023 年 7 月 27 日 (木) 14:45~16:45 (受付開始 14:30)

費用: 5,000 円

対象: 2017 年 4 月以降の山下桂世子の「ジョリーフォニックス総合トレーニング」Part1,2,3 受講済みの方

日本語版「はじめてのジョリーフォニックス」の指導を通じて、子どもたちは英語の音素 42 音とその基本の綴りを学び、それらをくっつけ(ブレンディング)、分解し(セグメンティング)、簡単な単語を自分で読む力をつけていきます。

「はじめてのジョリーフォニックス2」に進むころには hat, bed, cup, rain, park という CVC (子音+母音+子音) 単語は読めるようになりますが、ここからいきなり The red bus is big. All the bees are loud. のような文に移行するにはまだ少し壁があります。2 に進む前に、もう少しだけ指導を加えることで、よりスムーズな移行ができるようになるのです。

今回のワークショップでは、この壁をより低くするために行っていただきたい以下の活動をお伝えしていきます。

- 42 音と基本の綴りを指導しているときからできる活動
- 42 音と基本の綴りを終えてから行う活動
- is, are を使えるようになる活動
- the big book というかたまりを認識できるようになる活動

オリジナルのワークシートで、子どもたちが自信をもって英単語からチャンク、そして文を読めるようにしましょう。

---

## workshop 5) 「デコーダブルブックス」(2 時間)

日時: 2023 年 7 月 28 日 (金) 13:30~15:30 (受付開始 13:15)

費用: 5,000 円

対象: 2017 年 4 月以降の山下桂世子の「ジョリーフォニックス総合トレーニング」Part1,2,3 受講済みの方

デコーダブルブックスとは、decodable (解読できる) books.、つまり既習の文字や綴り、ひっかけ単語などで自分の力で読むことができる本のことです。ジョリーフォニックスでは、最初に s, a, t, i, p, n の 6 つの音と文字を学習し、Read and See, Little words books、そして Orange Readers の 3 種類の本をすでに読めるようになります。デコーダブルブックスを用いることで、子どもたちは語彙を増やし、その語彙の定着が促され、そして単語や文を流暢に読めるようになっていきます。デコーダブルブックスは宿題として子どもたちに渡すこともできますが、今回のワークショップでは、クラスの中でどのように活用していくか学んでいただき、時間が許せば子どもたちにあったデコーダブルブックスを自分で作っていただくと思います。

日本ではまだまだ馴染みがないデコーダブルブックスですが、実は国語はすべてデコーダブルですし、算数や社会などの教科書もその学年までで習った漢字のみ使用していますので、デコーダブルブックスです。ところが英語だけはなぜかいきなり難しい綴りの単語が羅列された教科書。これはこれで語彙の習得や文法を学習するには必要な面もありますが、「読み」という観点では子どもたちにとっては「暗号」でしかありません。そんなことを頭に入れておくと、子どもたちがなぜ単語の上にカタカナを振るのかもわかりますよね。

---

## workshop 1)~5) の 共通情報 公示ページ (<https://kayokoyamashita.com/2023DW5>)

会場: エル・おおさか南館 7 階南 75 会議室 <https://www.l-osaka.or.jp/>

〒540-0031 大阪府中央区北浜東 3-14 大阪府立労働センター

定員: 28 名 (当日会場での追加受付はありません)

持ち物: 筆記用具, 飲み物, 開催前に公示ページで提供されるハンドアウト(ダウンロード・印刷してお持ちください (ワークショップによってはハンドアウトが提供されないものもあるかもしれません)), 3) 4) のみ日本語版「はじめてのジョリーフォニックス ティーチーズブック」, 5) のみ A4 用紙 3 枚程度

その他: お問い合わせ・お申込みは公示ページから専用フォームが用意されています。

また、当ワークショップの詳細は公示ページに提供される「サービス利用規約」をご確認ください。